

日本語における男女差について

ースリランカ人日本語学習者の意識調査ー

所属： 教育学部

名前： カスニ・ラトナーヤカ

指導教員：濱田秀行先生

1. はじめに

1.1 研究の背景

本論では、日本語における男女差とシンハラ語における男女差についての背景を説明するし、テーマに関する先行研究について分析する。日本語の口語には男性・女性特有の語彙と文末表現が見られる。話している際使われている名詞、自称詞、感動詞、文末表現などで発話者が女性か男性かを判断することができる。それは、日本語の特徴の一つだと考えられる。日本語学習者として日本人とうまくコミュニケーションを取るため、男性語・女性語についての知識が必要になる。スリランカの日本語の教育では口語を教える授業が少なく、日本語の男女差について学ぶ機会も少ない。

スリランカの公用語であるシンハラ語では男女差があまりないため、スリランカ人日本語学習者にとって、日本語における男性語と女性語を理解することは難しいのではないのだろうか。

本研究の目的は、日本語において特に男女差がみられる人称代名詞と文末表現に着目して、スリランカ人日本語学習者の意識調査を行い、日本語学習者の男女差に関する意識、理解、状況を明らかにすることである。「日本での留学経験がある/無しということによってジェンダー表現に関する意識が変わるか?」ということを確認するのは2番目の目的である。さらに男性語と女性語を理解するうえでスリランカの日本語教育ではどんな問題点があるか検討する。

本論では、日本語の男女差についてスリランカ人日本語学習者の意識を調べる。

★ 日本語の男女差

女性の用いる自称・対称代名詞、男性の用いる自称・対称代名詞ははっきり分かれているし、言葉としては男女に共用されている唯一の自称代名詞である「わたし」もその待遇段階の把握については男女に差があり、女性のほうがよりフォーマルな形式を使う。(小林

美恵子 2011)

終助詞は話し手の属性を表すマーカーとして機能することも多い。

例: (55) 狼が来るぞ。

(56) 狼が来るよ。

「ぞ」は「よ」よりも力強い印象を与える表現で、話者の属性に関して男性的な意味合いを与える。(55)は(54)との対比において「ぞ」よりはあたりのやわらかい表現となり、話者の属性に関して言えばより女性的な意味合いを与える表現と言えよう。(西川寛之 2009)

こうして見ると、日本語では自称・対称代名詞においても、文末表現においても男女差が見られる。

★ シンハラ語の男女差

シンハラ語の文語には男女差が見られるし、文末の動詞は男女差によって変わる。しかしシンハラ語の口語にはそのような変わりがない。

例:

「私はバスで行きます」という文は日本語で男性と女性が話すとき下記のように変わる場合がある。

男性 → 僕はバスで行くぞ。

女性 → あたしはバスで行くよ。

しかし、シンハラ語の口語には男女差がないため、「私はバスで行きます」という文は下記のように男性も女性も同じ言い方を使う。「mama bas eken yanavā」という話し方より変わらない。

シンハラ語 →

男性: මම බස්එකෙන් යනවා.(mama bas eken yanavā)

女性: මම බස්එකෙන් යනවා.(mama bas eken yanavā)

シンハラ語の口語には男女差によって文が変わらないですが、文語には変わりが見られる。しかし「私」という自称代名詞が使った文語の文にも、男女差によって変わらない。例えば、「私はバスで行きます」という文は文語にも男女差によって変わりがなく、男性も女性も「මම බස්එකෙන් යමි」(mama bas eken yami)として使える。

しかし「彼女」、「彼」という対称代名詞が使った文では、男女差によって変わりがある。例えば、「彼女はバスで行きました」、「彼はバスで行きました」という2つの文は

シンハラ語文語には下記のように変わりがある。

女性：ඇය ඔස්ඵකෙන් ගියාය.(eya bas eken **giyaya.**)

男性：ඔහු ඔස්ඵකෙන් ගියේය.(ohu bas eken **giyeya.**)

このようにみると、シンハラ語には男女差が表す表現が大変少ないということがわかる。

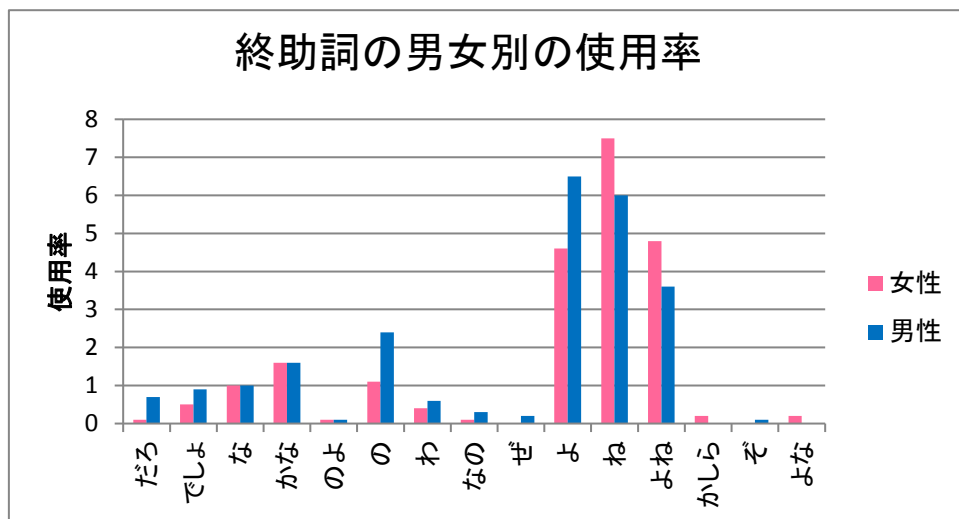
1.2 本論の構成

本論は全てで5章から構成されている。第1章では研究の背景、問題提起、目的などを説明するし、日本語に見られる男女差とシンハラ語に見られる男女差を紹介した。第2章では、先行研究を紹介をした。データと研究方法を紹介するのが第3章である。第3章はアンケートの質問を説明するし、ジェンダー表現についての調査・分析である。この章では、スリランカ人日本語学習者は普段使っている日本語の人称代名詞と文末表現を用いて、スリランカ人日本語学習者の男女差に関する意識、理解、状況を明らかにした。そして、ジェンダー表現に関する意識調査と分析を述べている。そこで、日本での留学経験がある・無しということによってジェンダー表現に関する意識、理解が変わるかを明らかにした。第4章は考察である。最後章の第5章は本研究のまとめと今後の展望を述べたものである。

2. 先行研究

2.1 日本語におけるジェンダー表現 (2013)

陳 (2013) は、日本語の自然会話に見られる男女差について分析を行い、日本語における男女差の一端を解明している。陳 (2013) では、終助詞の男女による使用率を以下のように示している。



2.2 日本語文末詞の研究 (2009)

西川 (2009) 日本語の終助詞を女性的終助詞、男性的終助詞、中立的終助詞として三つの種類に分けている。

① 女性的終助詞

わ、ね

② 男性的終助詞

さ、ぞ、ぜ、な

③ 中立的終助詞

よ、か、な

2.3 自称・対称は中性化するか? (2011)

小林 (2011) では、自称・対称代名詞を男女差によって以下のように分析している。

① 女性的自称・対称代名詞

わたし、あたし、わたくし、あなた、あんた

② 男性的自称・対称代名詞

わたし、あなた、おれ、ぼく、おまえ、てめえ、あいつ

③ 中立的自称・対称代名詞

わたし、あなた、きみ

日本語の男女差について研究が数多くあるが、スリランカ人日本語学習者を対象に行われた研究がないため、上記の先行研究を基礎としてとらえて本研究を行った。

3. データと研究方法

3.1 研究方法

本研究はスリランカ・ケラニヤ大学の日本語学習者を対象にアンケートを配って、調査をした。対象者数は12人である。日本に留学した経験がある学生6人と日本に留学したことがない学生6人にアンケートを配った。対象者の12人は日本語を専攻にしている学生(Special Degree)、日本語を専攻にしていない学生(General Degree)として変わりがなくアンケート調査を行った。対象者はみんな大学3年生で、日本語能力試験のN3レベル以上の学生である。本研究での男性語・女性語は、自称代名詞と文末表現(終助詞)のみを扱う。

3.2 アンケート結果

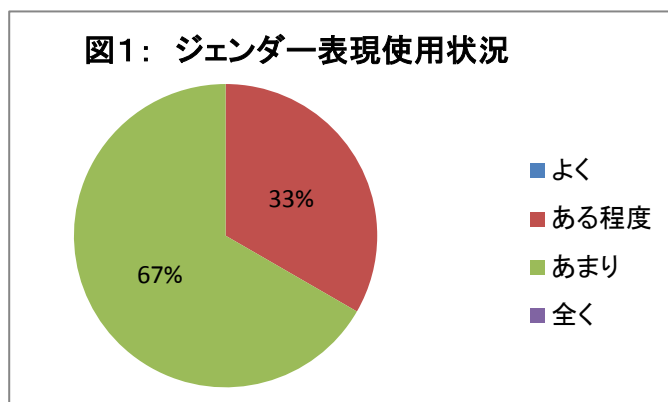
本論は、ケラニヤ大学のスリランカ人日本語学習者が対象のアンケート調査を用いて、ジェンダー表現がどのような印象を持たれているのか、どのように使われているのかを明らかにすることでジェンダー表現の意識を明らかにすることを目的とする。つまり、スリランカ人日本語学習者の男女差に関する意識、理解、状況を明らかにすることは目的とする。

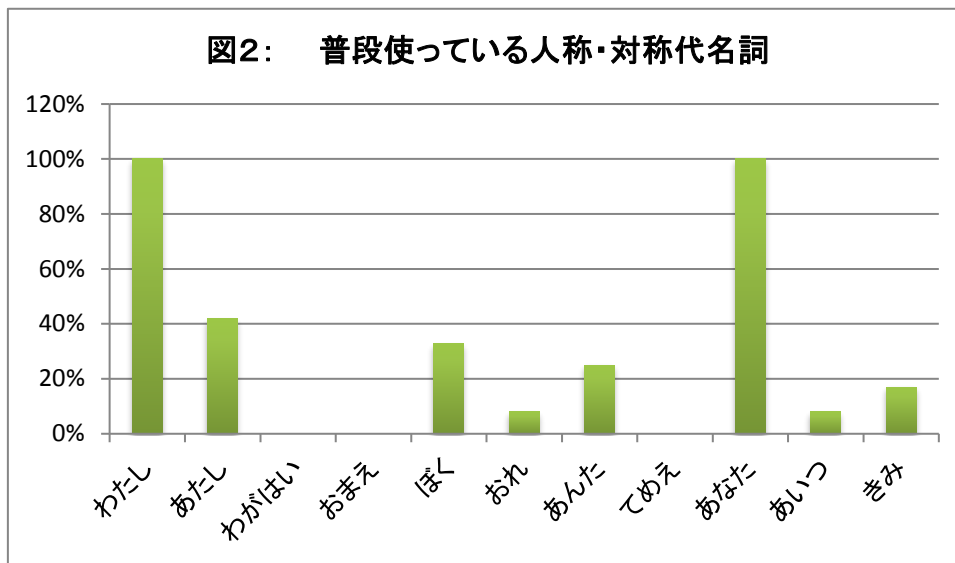
スリランカ人日本語学習者の男女差に関する状況

まずは、アンケートの問1で、スリランカ人日本語学習者を対象に、普段の日本語会話において日本語のジェンダー表現をどの程度意識して使用するか調査した。選択肢に「a よく使う」「b ある程度使う」「c あまり使わない」「d 全く使わない」の3つを用意した。その結果を示したのが図1である。

ジェンダー表現をよく使うと答えた人も全く使わないと答えた人もいない。ジェンダー表現をある程度使うと答えた人の割合は33%で、ジェンダー表現をあまり使わないと答えた人の割合は67%を示す。この結果からみると、スリランカ人日本語学習者の中で日本語のジェンダー表現をあまり使わない人が多いという状況がわかる。

アンケートの問3で、スリランカ人日本語学習者は普段使っている人称代名詞の使用率を調査した。「わたし、あたし、わがはい、おまえ、ぼく、おれ、あんた、てめえ、あなた、あいつ、きみ」という人称・対称代名詞を基にして調査した。スリランカ人日本語学習者は普段使っている人称・対称代名詞の使用率を示したのが図2である。





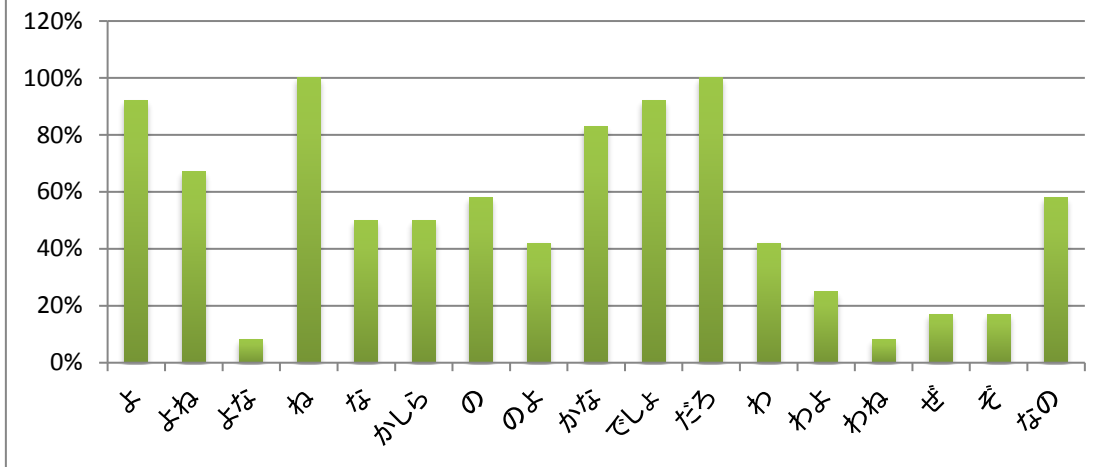
「わがはい」、「おまえ」、「てめえ」を使っている学生は一人もいないし。「おれ」と「あいつ」の使用率が大体 8%と低かったのに対し、「わたし」と「あなた」の使用率が 100%を占める。特に「わたし」と「あなた」はかなり日常的に使用されている代名詞であると言える。または、「あたし」の使用率は 40%を超えており、「わたし」と「あなた」の後使用率が高い人称代名詞である。「ぼく」と「あんた」の使用率が大体 20-40%を占めるのに対し、「おれ」「あいつ」「きみ」の使用率が 20%より低くなっている。

ここでスリランカ人日本語学習者は普段使っている男女差がみられる終助詞の使用率をみる。アンケートの問 4 で、「よ」「よね」「よな」「ね」「な」「かしら」「の」「のよ」「かな」「でしょ」「だろ」「わ」「わよ」「わね」「ぜ」「ぞ」「なの」という文末表現を基にして調査した。この結果を示したのが図 3 である。

この結果をみると「よ」「よね」「ね」「の」「かな」「でしょ」「だろ」「なの」という文末表現は 50%以上の高い使用率であるのに対し、「よな」「わね」「ぜ」「ぞ」の使用率が 20%と低い。使用率が 80%を超えている「よ」「ね」「かな」「でしょ」「だろ」の文末表現はスリランカ人日本語学習者の日常会話でかなり使用されている表現であると言える。その中でも「ね」と「だろ」は使用率が一番大切し、100%を示している。

ここまでの図 1、2、3 の三つの結果も合わせてまとめると以下のようになる。日本語のジェンダー表現をあまり使わないスリランカ人日本語学習者の数が多いし、普段使っているジェンダー表現の中で「わたし」、「あなた」という代名詞と「ね」「だろ」という文末表現の使用率がもっとも高くなっている。

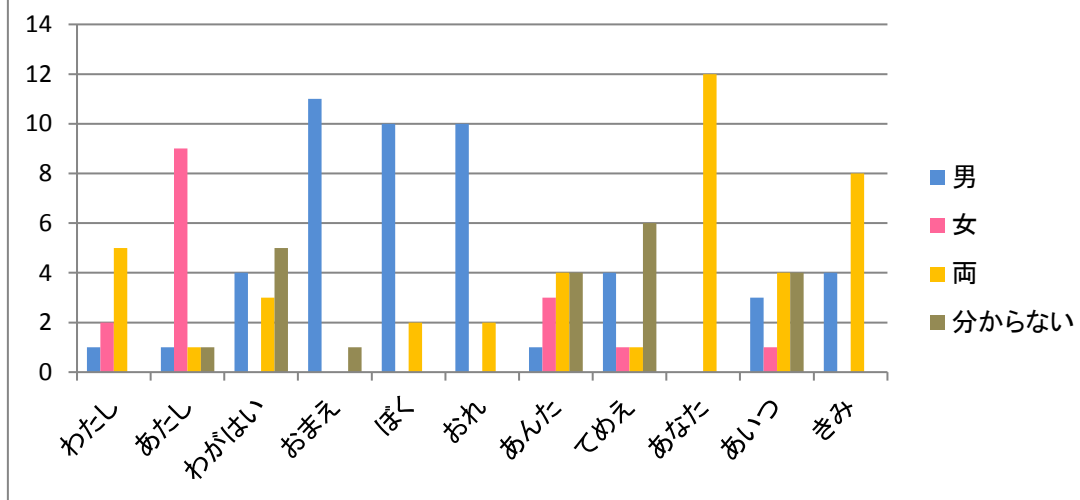
図3: 普段使っている終助詞の使用率



日本語のジェンダー表現に関する意識調査

アンケートの問2で、人称代名詞の男女差についてどんな印象を持っているかを質問し、日本語の男女差が見られる人称代名詞を基にしてスリランカ人日本語学習者の意識調査を行った。「わたし、あたし、わがはい、おまえ、ぼく、おれ、あんた、てめえ、あなた、あいつ、きみ」という人称・対称代名詞についての印象を調べた。選択肢に「a 男性が使う」「b 女性が使う」「c 男性も女性も使う」「d わからない」という3つを用意した。

図4:



この結果からみると、「おまえ」「ぼく」「おれ」は男性的だと思っているのに対し、「あたし」は女性的だと思っているスリランカ人日本語学習者が多いのがわかる。一方「わたし」「あんた」「あなた」「あいつ」「きみ」は男性も女性も使うと思っている学習者が多い。

アンケートの問5で、男女差が見られる終助詞についてどんな印象を持っているかを質

問し、「よ」「よね」「よな」「ね」「な」「かしら」「の」「のよ」「かな」「でしょ」「だろ」「わ」「わよ」「わね」「ぜ」「ぞ」「なの」という終助詞を基にしてスリランカ人日本語学習者の意識調査を行った。

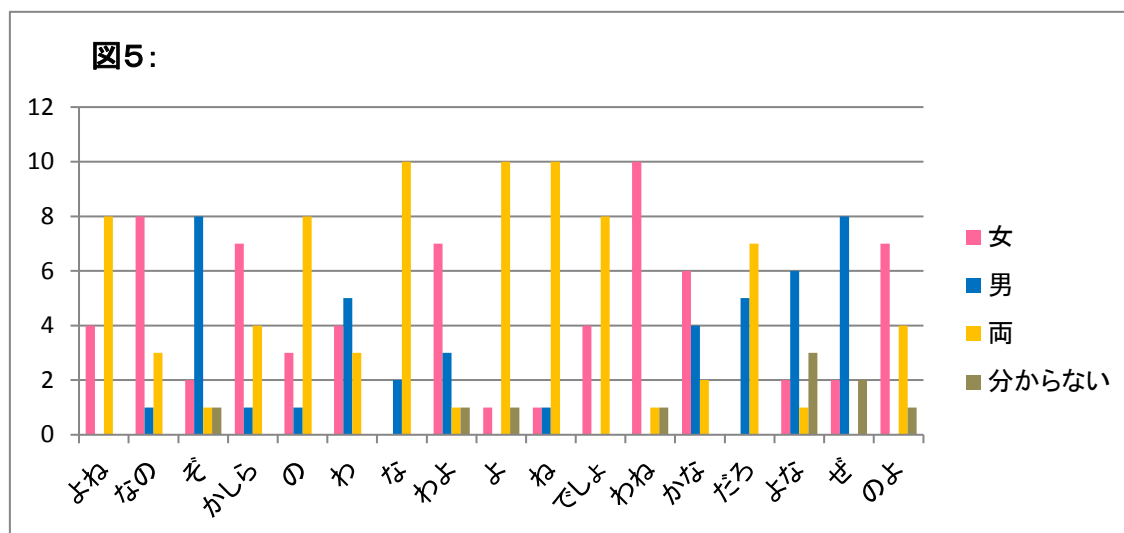
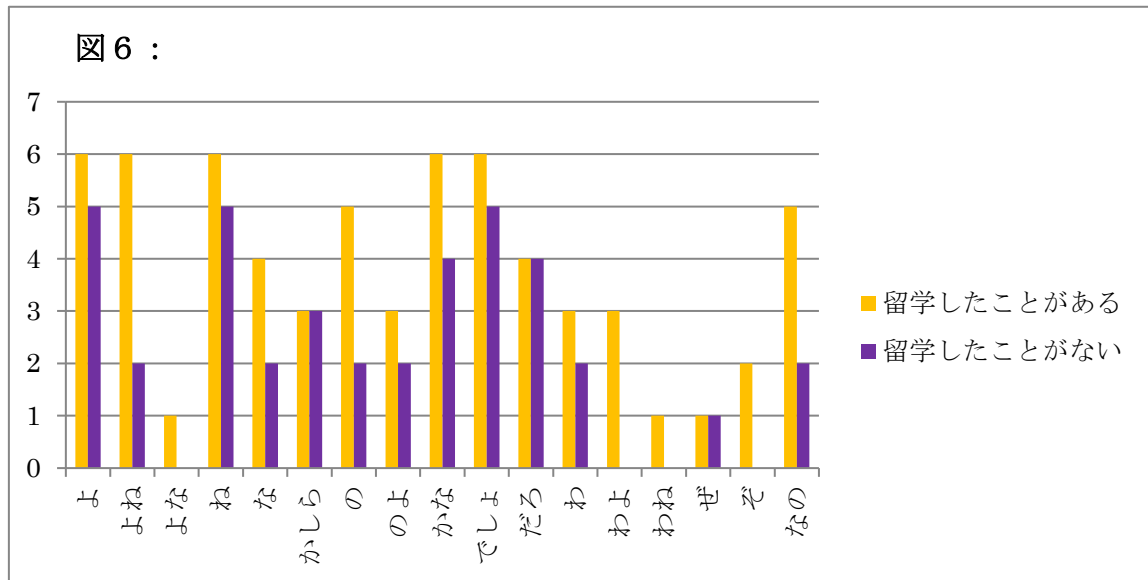


図5の結果を見ると、「なの」「かしら」「わよ」「わね」「かな」「のよ」という終助詞は女性的と答えた人が多いし、「ぞ」「わ」「よな」「ぜ」は男性的と答えた人が多い。または、「よね」「の」「な」「よ」「ね」「でしょ」「だろ」という終助詞は男性も女性も使うと答えた人が多い。

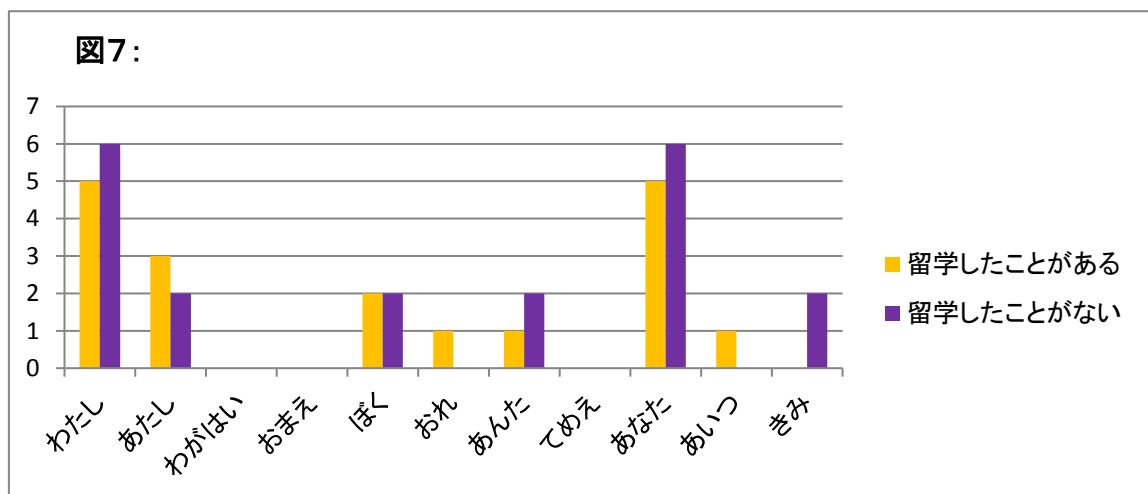
日本での留学経験がある/無しということでジェンダー表現に関する意識が変わるか？

日本に留学したことがある学生と留学したことがない学生によって日本語のジェンダー表現に関する意識、理解が変わっているか、または留学経験によってジェンダー表現の使用率が異なるかという点を調査した。

次に日本語学習者の中でも、日本に留学したことがある学生と留学したことがない学生に分けてデータを見てみる。まず、図3で示した普段使っている終助詞の使用率は留学経験あり、無しという点でどのように変わるかを次の図6の結果からみていく。次のグラフを見ると、日本での留学経験がない学生より日本に留学したことがある学生のほうが終助詞の使用率が高いということがわかる。さらに、留学したことがない学生の中で「よな」「わよ」「わね」「ぞ」という終助詞が使われている方が一人もいない。しかし、日本に留学したことがある学生はアンケートに出ている全ての終助詞が使われている可能性が見られる。「かしら」「だろ」「ぜ」が使われている留学経験がある学生と留学経験がない学生の数がほぼ同じである。しかしその以外の全ての終助詞の使用率をみると、留学経験がある学生のほうが使用率が高いということがわかる。



次に、日本語学習者は普段使っている人称代名詞の使用率は留学経験あり、無しという点でどのように変わるかを次の図7の結果からみていく。図7の結果は図6の結果から違いがあり、留学経験がある学生より留学経験がない学生の使用率が高い場合も見られる。「わたし」「あなた」「あんた」は留学経験がある人より留学経験がない人のほうが使用率が高い。さらに、留学経験がある学生が使用していない「きみ」という代名詞を留学経験がない学生が使われているということがわかる。その一方、留学経験がない学生が使われていない「おれ」「あいつ」などは留学経験がある学生が使われているということもわかる。この結果を合わせてまとめると留学経験がある学生は「わたし」「あなた」という代名詞の代わりに「あたし」「おれ」「あいつ」なども使用するし、使われている代名詞の数が多くなっていると考えられる。



日本語のジェンダー表現に関するスリランカ人日本語学習者の理解

陳 (2013) と小林 (2011) に述べている男女差によって人称代名詞と文末表現の分析を参考にしてアンケートの問2と問5に点数を入れてスリランカ人日本語学習者の意識調査を行われた。アンケートの質問は以下のようである。

問5. 以下の文は男性が言ったセリフか女性が言ったセリフか書いてください。

女性	1	男性も女性も言う	3
男性	2	分からない	4

I. あの仕事、一人でもできるよね。 _____

II. 今日は休みなの。 _____

III. すぐ行くぞ。 _____

IV. 明日は休みかしら。 _____

V. 一人で何やってるの。 _____

VI. 旅行は楽しかったわ。 _____

VII. うるさいな。 _____

VIII. あそこのタイ料理、美味しかったわよ。 _____

IX. このケーキめっちゃおいしいよ。 _____

X. バス停で待ってるね。 _____

XI. あの子可愛いでしょう。 _____

XII. ちゃんと約束してくれたわね。 _____

XIII. 田中さん今日来ないかな。 _____

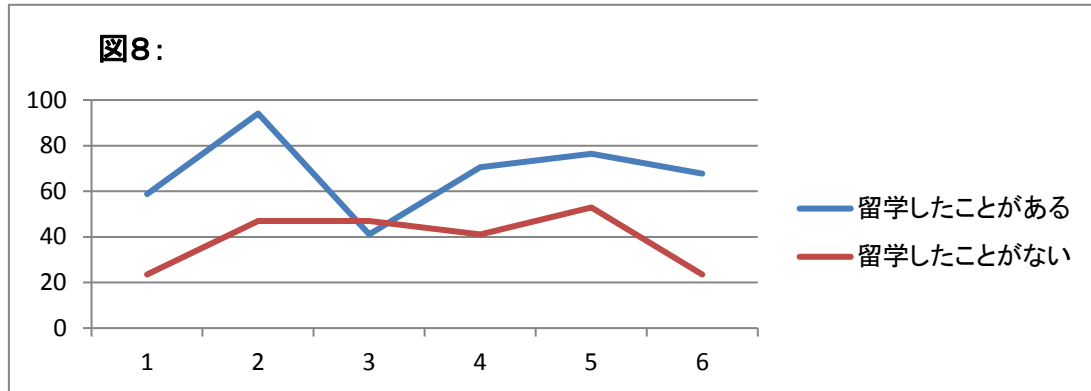
XIV. この答はおかしいんだろ。 _____

XV. あの頃を思い出すと懐かしいよな。 _____

XVI. プールに行こうぜ。 _____

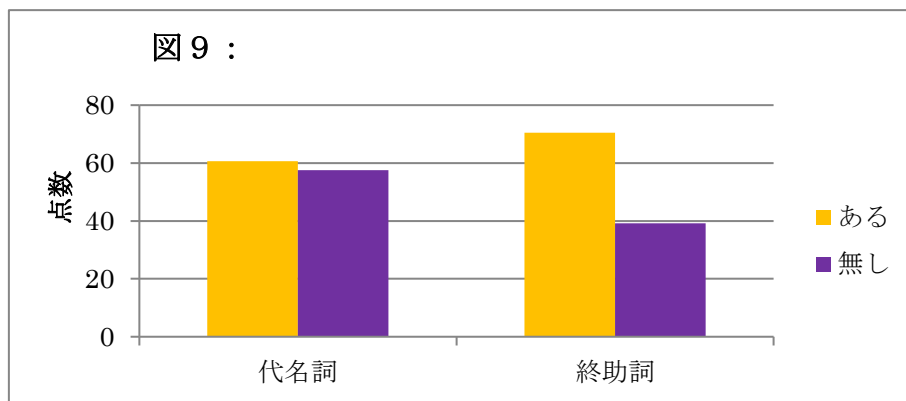
XVII. 昨日このバッグ買ったのよ。 _____

陳 (2013) と小林 (2011) に述べている男女差によって人称代名詞と文末表現の分析を正しい答えとしてとらえて、アンケートの対象者に点数をつけた。図8はこの点数を示しているグラフである。この各質問にとらえた点数を見てみると、留学したことがある学生と留学したことがない学生の点数が大きく変わっている。留学したことがある学生の中でほとんどの人の点数は50%を超えているのに対し、留学したことがない学生の中でほとんどの人は50%より低い点数をとっている。

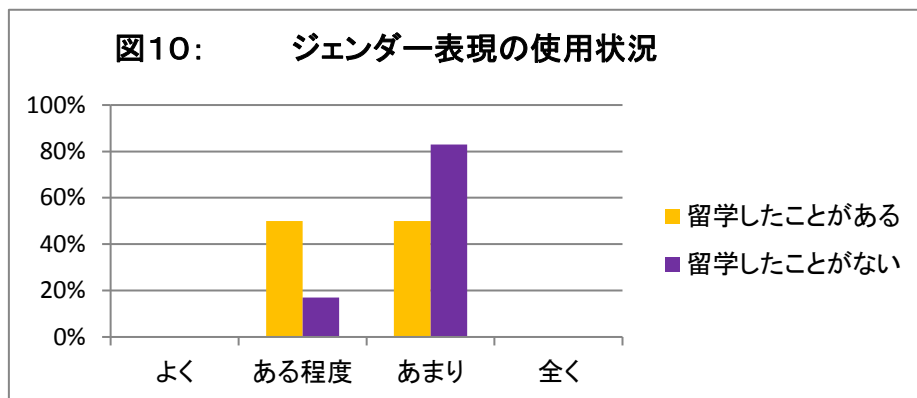


人称代名詞と文末表現の質問に答えてとらえた点数の平均点数を1つのグラフに入れたのは図9である。このグラフの結果を見ると、代名詞の質問の平均点数は留学経験がある学生も留学経験がない学生も50%を超えている。代名詞の平均点数は留学経験がない学生と留学経験がある学生間に大きな差がみられないが留学経験がない学生より留学経験がある学生の平均点数が少しでも超えている。

しかし、終助詞の質問に答えてとらえた点数の平均点数は留学経験がある学生と留学経験がない学生間に大きな差がみられる。留学したことがない学生の平均点数は50%より低いのに対し、留学したことがある学生の平均点数は60%を超えている。結果を合わせてまとめると、留学経験がない学生より留学経験がある学生のジェンダー表現に関する意識、理解が広がっていると言える。



スリランカ人日本語学習者のジェンダー表現使用状況を日本に留学したことがある、留学したことがないという点でどのように変わるか図10で示している。



日本語のジェンダー表現をある程度使うと答えた、日本に留学したことがある学生の割合は50%で、留学したことがない学生の割合は17%を示す。ジェンダー表現をあまり使わないと答えた日本に留学したことがある学生の割合は50%で、留学したことがない学生の割合は83%を示す。この結果からみると、ジェンダー表現をあまり使わない日本に留学したことがない学生の割合は日本に留学したことがある学生の割合より多い。そして、ジェンダー表現をある程度使う学生の中で、日本に留学したことがない学生より日本に留学したことがある学生の割合が多い。この結果を合わせてまとめると留学経験がある学生は、留学経験がない学生より日本語のジェンダー表現を意識して使われているということがわかる。

4. 考察

「1.1」であげた調査目的に対し、以下のことが明らかになった。

- ①スリランカ人日本語学習者の日本語のジェンダー表現に関する意識、理解、状況を明らかにした。

スリランカ人日本語学習者のほとんどは日本語のジェンダー表現をあまり使わないということを知ってきた。「わたし」と「あなた」はかなり日常的に使用されている代名詞であると言える。「よ」「ね」「かな」「でしょ」「だろ」の文末表現はスリランカ人日本語学習者の日常会話でかなり使用されている表現であると言える。

- ②日本での留学経験がある/無しということでジェンダー表現に関する意識が変わるか？

男女差がみられる人称代名詞と終助詞の使用率をみると、日本に留学したことがない学生より、留学経験がある学生のほうが使用率が高いということがわかる。

会話で女性語と男性語を正しく使う能力が、日本に留学したことがある学生、留学したことがない学生間で差があるということを明らかにした。調査に対象した学生の中で一年間日本に留学したことがある学生は留学したことがない学生よりジェンダー表現を正しく使われているし、使用しているジェンダー表現も留学経験がない学生より広がっている。な

ぜこのように差があるのかを考えると、日本語しか聞こえない日本語の環境の中でジェンダー表現に関する理解、意識が広がるということが明らかにする。

5. 結章

5.1 全体のまとめ

本稿では、スリランカ人日本語学習者の意識調査を行い、日本語学習者の男女差に関する意識、理解、状況を明らかにした。第1章では、本研究の背景と目的について述べた。第2章では、先行研究を紹介した。第3章では、データと研究方法を紹介した。この章でアンケートの問題を説明し、アンケート結果を用いてスリランカ人日本語学習者のジェンダー表現に意識、理解、状況を明らかにした。第4章では、本論の考察を述べた。最後の5章では、本研究のまとめ、評価、展望の提示を述べた。

②評価

スリランカ人日本語学習者を対象に行う意識調査から得られた本稿はスリランカの日本語教育の様々な場面において有効であると思われる。

③展望の提示

本研究で明らかにした日本語学習者の男女差に関する意識、理解、状況を基にして、日本語の男性語と女性語についてのわかりやすい教え方を調べるのは、今後に残された課題である。

【参考文献】

陳一吟（2013）『日本語におけるジェンダー表現』、有限会社花書院

現代日本語研究会（2011）『合本女性の言葉・男性の言葉』、株式会社ひつじ書房

西川寛之（2009）『日本語文末詞の研究—文構成要素としての機能を中心に』、株式会社凡人者

アンケート

日本語の男性語と女性語についてスリランカ人日本語学習者の意識を調べる研究を行っています。本アンケート調査にご協力御願ひ申し上げます。

❖ 以下の選択肢に○をつけてください。

- 性別 男 女
- 学年 年生
- J L P T 有 無し レベル N
- 日本に留学したことがありますか。

ある ない

1. あなたは日本語の日常会話でジェンダー表現（女性語と男性語）を意識して日本語を話していますか。

よく使う ある程度使う
あまり使わない 全く使わない

2. 以下の人称代名詞についてどんな印象を持っているか1－4までの番号を選んで書いてください。

男性が使う **1** 女性が使う **2** 男性も女性も使う **3** わからない

4

わたし あたし わがはい おまえ
ぼく おれ あんた てめえ
あなた あいつ きみ

3. あなたが普段使っている人称代名詞に○をつけてください。

わたし あたし わがはい おまえ
ぼく おれ あんた てめえ
あなた あいつ きみ

4. 以下の文末表現の中で使ったことがあるものに○をつけてください。

～よ ～よね ～よな ～ね ～な
～かしら ～の ～のよ ～かな

～わ _____ ～でしょ _____ ～だろ _____ ～わよ _____
～わね _____ ～ぜ _____ ～ぞ _____ ～なの _____

5. 以下の文は男性が言ったセリフか女性が言ったセリフか書いてください。

女性 1 男性も女性も言う 3
男性 2 分からない 4

- XVIII. あの仕事、一人でもできるよね。 _____
XIX. 今日は休みなの。 _____
XX. すぐ行くぞ。 _____
XXI. 明日は休みかしら。 _____
XXII. 一人で何やってるの。 _____
XXIII. 旅行は楽しかったわ。 _____
XXIV. うるさいな。 _____
XXV. あそこのタイ料理、美味しかったわよ。 _____
XXVI. このケーキめっちゃおいしいよ。 _____
XXVII. バス停で待ってるね。 _____
XXVIII. あの子可愛いでしょう。 _____
XXIX. ちゃんと約束してくれたわね。 _____
XXX. 田中さん今日来ないかな。 _____
XXXI. この答はおかしいんだろ。 _____
XXXII. あの頃を思い出すと懐かしいよな。 _____
XXXIII. プールに行こうぜ。 _____
XXXIV. 昨日このバッグ買ったのよ。 _____

本日はお忙しいところアンケートにご協力頂き誠に有難うございました。